



校章について

シンプルで洗練された誰もが描くことのできる校章
創立したころの教員の願いが込められています

校章は、昭和28（1953）年5月頃に発案され、翌29年に正式採用されました。正三角形を二つ並べ合わせて（左は女子・右は男子を表示しています）その各辺の中点をとって、さらにまたその中点をとって各々の点を縦横に相互に結び、「中」の漢字になるように規則正しく色塗りしたものです。

創案者であった川井能之先生（図工・音楽）の回想談によると、「学校のシンボルである校章は、安定感のある正三角形を結びあわしたものを基本としており、真・善・美を目指して励む生徒の目標を、また敬・愛・信の教育の姿をあらわしている。二つの正三角形がむすびあって、城西中学校の生生発展を期待しているといった意味をもっているのである。」と、あります。

《正しい校章の描き方：右図》

- ①まずは縦に線分を引き、上端をA点下端をB点にしましょう。
- ②次にAとBの点を中心として半径がABの長さの円をかきます。
- ③二つの円が交わった点のうち線分ABの左側をC点、右側をD点とします。
- ④CからAとB、DからもAとBに線分を引きます。すると、きれいな正三角形が左右に二つ並びます。
- ⑤図形全体（ひし形）の各辺の真ん中にも印をつけます。
- ⑥さらに、それぞれの真ん中にもまた印をつけていきます。
- ⑦そして、真ん中の印どうしを縦横に結んでいきます。
- ⑧「中」の漢字となるように、影の部分を抜き取ると完成です。

